

スキルとプロセスの両立を目指し

渡辺 登

情報処理推進機構 ソフトウェア・エンジニアリング・センター
n-watana@ipa.go.jp

SS2009 参加にあたり、自己紹介やこれまでの活動を中心にポジションペーパーを提出する。

1. 自己紹介

開発現場である OKI 通信システム、技術者コミュニティである SESSAME、国策の IPA/SEC といった3つの組織にて、人材育成を中心に活動。

1.1. OKI 通信システム

沖電気 (OKI) の通信ソフトウェアの開発子会社である OKI 通信システム株式会社に入社後、キャリア向け交換機などのファームウェア開発に従事。IPA/SEC に出向・復職後、現在は全社のプロセス改善を担当。

1.2. SESSAME

SESSAME(NPO 法人 組込みソフトウェア管理者・技術者育成研究会)に参加し、技術者コミュニティの活動を実施。スキル標準、OJT 再考、技術者交流を主宰。

1.3. IPA/SEC

SESSAME のスキル標準を策定した経験から、2003 年経済産業省の組込みソフトウェア開発力強化推進委員会に招聘。組込みスキル標準 (ETSS) の策定に従事。2004 年に IPA に新設されたソフトウェア・エンジニアリング・センターに出向し、ETSS の策定や普及・啓発に業務として従事。現在は OKI 通信システムと兼務で活動中。

2. 教育に関して実践している内容や取り組み

前述の3組織にて、ETSS、OJT 再考、プロセス改善など、開発力強化や育成に関して積極的に取り組み中。

2.1. ETSS

ETSS 担当研究員として開発・策定以降、地方を中心に研修や実証実験を実施。個人のスキル可視化によるスキル・キャリアアップ支援。組織やプロジェクトのスキル

可視化による計画や評価の支援など実施。最近では ETSS 活用事例が多く流通し、具体的な活用が進んでいると感じている。OKI 通信システムでも ETSS を活用した技術者教育の充実を図っている。

2.2. OJT 再考

ETSS の取り組みに際し、集合教育や組織戦略における活用は活性化支援できたと感じている。特にインストラクショナルデザインに基づく「ETSS 教育プログラムデザインガイド」も発行した。

しかし、やはり開発現場の OJT が重要であると実感し、俺様教育学でなく、教育学や認知心理学といったセオリを技術者や教育企画者にスキルを身につけてもらうことを支援している。TWI から流行りの学習環境デザインまで、上手に現場での訓練や学習を支援したい。

2.3. プロセス改善

スキルだけでなく、エンジニアリングやマネジメントも重要であり、組織ではこれらをバランスよく遂行できる必要がある。プロセス改善に対する意識づけ、プロジェクト計画や組織トレーニングにおける ETSS 活用推進を実施。

開発現場の忙しさに起因する負のスパイラルを断ち切るために SEPG として何ができるのか、いつも悩んでいる。知識・技術・スキル・ツール・ルール・学習組織など、関係性の整理と効果的な施策を検討・整理を試みている。

2.4. 若手向けの教育充実

開発現場向けだけでなく、若年層向けロボコン (WRO) や若手技術者向けロボコン (ET ロボコン) を提供し、将来の技術者に関する取り組みも実施。

3. 議論したいこと

技術者個人としての知識とスキル、組織 (プロジェクト・企業) としての知識とスキル。これらの伝達・伝承に関する方法や事例。主に伝達・伝承を企画・支援する立場がやるべき事項を議論し共有したい。